

平成24年度
第2回 羽黒地域審議会
会議録（概要）

期 日 ： 平成24年8月8日（水）

場 所 ： 羽黒庁舎3階 集会室

平成24年度 第2回 羽黒地域審議会会議録 (概要)

○日 時 平成24年8月8日(水) 15時00分～

○場 所 羽黒庁舎3階 集会室

○出席委員(順不同)

佐藤 進、岡部 彌一郎、太谷 眞一、高田 志郎、金野 信勇、島津 慈道、山田 鉄哉、
斎藤 一、山田 勝実、齋藤 良幸、山口 平、本間 信一、庄司 晴一、小南 孝子、
土岐 由紀、加藤 欣也

○欠席委員 阿部良一、星野 博、富樫 篤、鈴木史子

○市出席者

羽黒庁舎 支所長 武田 功之、総務企画課長 榎本 光男、総務企画課主幹 佐藤 茂巳、
市民福祉課主査 志田 仁美、産業課長 岩城 公志、観光商工室長 五十嵐 満、
東部税務事務室長 山口 弘男、東部建設事務室長 高橋 親孝
総務企画課地域振興主査 佐藤 繁義、総務企画課専門員 大川 智之、
総務企画課主事 伊藤 寛実、総務企画課主事 工藤 徳将

本 所 企画部次長兼地域振興課長 三浦 総一郎、
地域振興課地域振興専門員 三浦 裕美、地域振興課主任 前田 哲佳
教育委員会教育部長 山口 朗、
教育委員会管理課主幹兼学区再編対策室長 鈴木 金右エ門、
教育委員会管理課学区再編対策室主査 本間 明

次 第

辞令交付

1 開 会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 会長・副課長の選出

5 報 告

(1) 学校適正配置について

6 協 議

(1) 地域審議会協議テーマ等について

(2) その他

7 そ の 他

8 閉 会

【会議の概要】

(委員へ辞令交付) 15時00分

出席委員16名へ武田支所長が辞令を交付。

- 1 開 会 榎本総務企画課長
- 2 あいさつ 武田支所長
- 3 委員紹介 榎本総務企画課長が出席委員を紹介
- 4 会長・副会長選出

山田勝実委員から推薦があり、会長に佐藤 進委員、副会長に斎藤 一委員が選出される。

佐藤会長あいさつ

5 報 告

(1) 学校適正配置について

資料に基づき説明

(質疑応答)

<佐藤会長>

今報告ありましたが、羽黒地域において校区の議論が始まっているようでありますが、実際は28年度に実施していきたいと始まっているようであります。

それに伴って羽黒地域でも起きていると、そういう実状もあるものですから、今の報告に対して、質問とか疑問とか、あるいは、この辺はどうなっているのかと、説明を求めたいところがあれば、挙手をして質問をして頂きたいと思います。

<島津 慈道委員>

学校の適正化を目指すというもので、羽黒町学校教云々ということで物事がなされているわけですが、羽黒地区の一小と四小の問題ということで、その2つを無くすることが目的のような目的になっているのではないかと。私が接した感じでは、この6学級～24学級という数字のとおりにするなら、一小から四小を一本に纏めても差し支えないだろうかとするのは若い人の年代の考え方です。と同時に、年取った人たちは自分の地域から学校が無くなるのは惜しい、活性化が無くなると言われますが、やはり将来的な教育的なものを考えた場合においては、やはり今ここにおいて、2つの学校を作って、また最後には2つの学校を1つの学校に統合するという考えを持つよりは、一小、二小、三小、四小を1つの学校としての捉え方で進めていくべきではなかろうかと。

まして、今は一小と四小の問題で、特に行政区画の問題が四小のほうでは絡んでおります。それはなかなか解消しない難しい問題がいっぱいできてきます。スケジュール、透明、公平、効果、色んなものをいっぺんに解決できるわけです。経費の問題もそれでかなうわけです。ただ、交渉がすぐにできないという問題があるわけですが、それは東校舎、南校舎、かつての分校という形でもいいでしょうし、そういう責任の取り方は出来ると思います。あえてここで申し上げて、若い人の世代も、複式という不安を除いて一本にするとい

う、羽黒全体を取りまとめていただけたらとありがたいなど。意向を受けて単なる2つの学校を作るという、4校を2校にするということだけではなくて、羽黒中学校を作るというときにあったような、大きなビジョンでつくるということを進めて頂いたほうが、大きなうねりになると考えておりますが、いかがでございましょうか。

<教育委員会 山口部長>

ただ今の羽黒地区1校での発言でございましたが、先ほども少し触れましたが、去る7月4日に羽黒地域の検討委員会が開催されまして、その時の結果報告ということで、今月の15日号に広報の折込で報告させていただく予定でおります。その中の主な意見ということで、島津委員からおっしゃられましたように、様々な心配があり、地域で1校にしたほうがいいのではないかという発言もございました。一方、四小からは、統合は止むを得ないという考えながらも、地域が分かれる、何処の学校に所属するのかという不安、といったこともございまして、地域検討委員会の結論といたしましては、将来的には羽黒地域の小学校は1校という課題も踏まえつつ、当面は複式学級の解消をどのようにするかという課題について、今後、各小学校の懇談会、地域検討委員会で検討ということで結論付けて頂いたところでございまして、地域の皆さんの意見は十分私どもも受け止めておりますので、まだ検討する時間は十分ございますので、引き続き各地域懇談会、検討会で議論して頂きたいと考えております。よろしく申し上げます。

<島津 慈道委員>

そのように思っただけでしたら一番ありがたいと思いますが、二小学区、三小学区が、その問題に対する理解力が無いものですから、一小、四小だけでやっているという、町全体でやっているという風が吹いていないものですから、それをもう少し、中学校、PTA、保育園というあたりをもう少し大きく動かしながら、特に、できるならば保護者の方々に複式授業を実際に経験していただけるような、実際に自分たちの子供たちがそうなっているのかというような思いをもっただけでしたらと思いますし、そうなっていただけたらいいなと思っております。

<佐藤会長>

ありがとうございます。

要望として、そういう意見があるということだと思います。

それから、関連するのだと思いますが、今の話で、第一と第四が対象として議論をしているという話でしたが、第二と第三というか、全体としての意思疎通はしていないということでしょうか。

<管理課 鈴木室長>

これまで、この計画を策定した時点で、羽黒地域全体の説明会をさせていただきましたし、その後、今回の対象となっている2つの地区で個別の説明会をさせていただきました。

今回の計画の手法の中で、まず今回の検討対象となっている14の小学区の意向を重要視しようということから、今議論いただいている、羽黒地域1校という考えの下に、皆

で情報を共有しようという意向を受けて、この羽黒地域全体の考え方とか説明会を検討させていただければと考えているところです。

<佐藤会長>

聞こえてくるのは、校区がなくなってしまうと、村全体、地域全体で集まる機会がなくなってしまう、地域全体の活性化というか、昔ながらの結束力がなくなってしまうという不安というか、危惧が多分にあるのですよ。

そういうかたちなので、余り感情的にならないような形で、上手く解決するような形で反応を見ながら進めて頂きたいと思いますので、1つよろしくお願いします。

6 協 議

(2) 地域審議会協議テーマ等について

資料に基づき説明

(質疑応答)

<太谷 眞一委員>

観光地羽黒の更なるステップアップを目指しての件ですが、羽黒地区は産業観光で巡る地区は非常に広いわけですが、今年度は熊の出没がところかまわず出ているようです。県内でも例年の倍以上になっていると新聞等で報道されています。羽黒地区でも他地区に比べられないくらい出没しているようですが、これらのことは観光客に悪い影響を与え、観光客の減少を及ぼすと思います。これらに対して行政はどのような対策をとっているのかお聞かせ願いたいと思います。

<産業課 岩城課長>

今、熊の出没状況が例年より多いということで、観光にどのような影響があるのかというお話でしたが、確かに熊の出没は朝日とか櫛引地区が多かったのですが、昨年1件、今年4件ほど熊の出没が見られたということで、防災無線等で皆さんに注意を喚起したところであります。これも皆さんご存知のとおり雪が多かったことと、ナラ枯れにより熊の食べ物が山の方に無く、里山の方に向かって歩き回っているせいか里山の方に向かって下りてくるという傾向があります。そういう観点から、熊が出没した場合には、住民の方の安全を確保するというので、こちらの方ではマニュアルを作りまして、まずは情報を皆さんに周知し、安全を確保してもらおうというのを目標としております。また、里山にまだ居るという場合は、猟友会に連絡いたしまして、それを捕獲するをいたしております。昨日の新聞でも新庄市の方で捕まって1頭処分されたという記事もございますが、羽黒地区におきましては、まだそのような状況には陥っていないという状態でございます。

観光に与える影響につきましては、熊の動く時間は早朝、もしくは夕方、日中は藪の中に潜んで夜間に動くということでございまして、観光地におかれましては、その地区の皆さんにその情報をお伝えし、事故の無いようにしたいと、そういう現状ですのでご理解い

ただければと思います。

<小南 孝子委員>

精進料理プロジェクトというのはすごくいいなと思いました。

この間、前任の梅津さんから来ないかと誘われたのですが、都合が悪かったので欠席させてもらったのですが、この次に、羽黒町の食改で9月17日に大進坊で精進料理を食べに行くということでした。

しかし、地元の人に精進料理プロジェクトと言われても、浸透していないところが結構あるみたいで、もっと羽黒の人にそういったことをアピールしたらどうかなと思いました。

観光地といって私たちが一生懸命頑張ってもお客さん次第なので、やはりイベント等やって、数を重ねていくことによってリピーターも来るかもしれない、それは食べるのが一番かなと。隣に偶々高寺の加藤さんが居るものですから、高寺八講のときに、櫛引のように何か出せばいいのではないかと考えたのですが。

色々規定はあるのかもしれないのですが、そういう風なものでやっていく。

それから、それをネットで流して、発信していくというのはどんなものかなと思っていたのですが。

<観光商工室 五十嵐室長>

精進料理プロジェクトのことにに関してですが、昨年、パリ、ハンガリーのブタペストで出羽三山の精進料理の実演を行い、国内外から注目を集めました。折角の機会ですから、何とか精進料理をコンセプトにしながら地元を盛り上げていこう、精進料理を使って誘客を図れないかということで、観光協会の有志の方々が立ち上がったものであります。

経過については新聞等にも詳しく出ておりますが、7月から2回ほど、宿坊で昼食に精進料理を食べる会を行いました。その情報発信というのが **facebook** や **twitter** で情報を流すと、最初の2日くらいで定員いっぱいになったという状況を伺っております。

今後、プロジェクトの中で色々な計画を進めているようです。例えば首都圏での実演講習をやる計画もあるようですし、あるいは、勉強会なども自分たちで進んでやっている状況であります。

今回の羽黒地域審議会の委員にプロジェクトのメンバーである土岐委員がおりますので、少しお話をさせていただければと思います。

<土岐 由紀委員>

精進料理なのですが、今までやってきて、またやるという話なのですが、夏だと宿坊の女将さんと一緒にやっているものでちょっとお休みし、今度は石井商店のような普通にご飯食べられるようなところでもやるような話になっています。ちょっとずつ、そんなに急いでも成果が出るようなものでもないかもしれないので、徐々に長くやっていければいいかなと思っています。

<観光商工室 五十嵐室長>

今回一番大きい成果というのは、宿坊の若女将さんとか、宿坊の若い後継者の方とかが、

自分たちでやろうと立ち上がったことだと考えております。行政としては、プロジェクトの活動に対し、バックアップするように心がけたいと思います。

<佐藤会長>

今の話のように、羽黒宿坊街の女将さん会というのが発足しまして、頑張っていくという話でありました。非常に良いことだと思いますので、今発言がありましたようにバックアップ体制ですね。それともう1つは、twitterとかいろいろな形で情報発信とか、広報も大事なのですが、リピーターというか、横のつながりが非常に影響するのですよ。情報発信とともに、そういったネットワークを上手く利用して、観光の方でもうまく発信してもらいたいと思いますのでよろしくお願いします。

<高田 志郎委員>

羽黒山バイパスの件なのですが、いつできるのだという方々が結構居りまして、進み方というのを広報の羽黒版でもいいですから、きちんと載せていただければなと思いました。

<東部建設事務室 高橋室長>

ご質問の羽黒山バイパスですが、24年度に関しましては、10年前に施工しました橋桁の修正設計と、現在施工済みの道路から橋桁まで行く工事用道路、そこは既に発注して工事しております。その他、地すべり観測、用地補償も、予算がついておりますので、今委員からご提案ありました、進捗状況について、何らかの形で周知していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

<佐藤会長>

これも羽黒の悲願ですので、この前もありましたように、日程管理と、ここまで進みましたよということを情報発信もあれば、そうかと納得する部分もありますが、そういう反応がいまいち無いものですから、不安を感じていると。

羽黒が観光地だという割にはその辺鈍いような感じがしますので、その辺よろしく願います。

<庄司 晴一委員>

押口の今区長をやっている庄司といいます。

23年の3月まで農協の方に勤めておりまして、その間3年間、羽黒を留守にしていたという状況もありまして、羽黒の状況が良く入ってこなかった、という状況がありました。

それで、区長になって実際に動いてみて、情報も事業もそうですが、わからない事だらけだということで、今回審議会に応募させていただいて、これから羽黒町の中で少しでも力になればなという形で、今回、この審議会に出席させていただいているという状況であります。

「観光地羽黒の更なるステップアップを目指して」ということと、今回仮称ではありますが「市民協働で進める羽黒の観光」こういう風なテーマですが、実際我々の地域なり集落の中では、観光に関しては、悪いけれど希薄です。ほとんど関わりある方は無いです。せいぜい地域から来て人を連れて行くなれば映画村くらいという風な状況です。

出羽三山にしても、前は土用になると、上、下、代参という形であったわけですが、今そういったものも無くなってきているという状況の中で、関わりがあるのは、部落の中で、神社も含めてですが、代参を行っているところで、神社総代の人くらいだと思います。実際集落の中では、集落にある神社だけでの繋がりだと思っているわけですので、本当にこのテーマの中で進めていくとなれば、市民協働ということになりますと、1人1人が関わっていきける形で進めていかなければならないのではないかなど。確かにチラシ等は流しますが、実際その効果はどれくらいあるのかと感じています。

確かにアクセス道路なり、かなり良くなってきていて、これからも計画あるわけですが、我々の地域の中で農業関係やっている中では、それほど多くの人が羽黒の観光というのを意識していないというのが実情です。

前は「農業と観光の町羽黒」ということで農業も今よりはまだ活気があったわけですが、甚だ悪いですが、今現在、集落営農等やっているわけですが、前より悪くなっている、というような認識でいます。

「前より悪くなったな、羽黒の活性というのは」というのが耳に入ってくるような状況でありますので、このテーマ、前任からずっとしているわけですが、実際我々が生活している中で、本当に羽黒の観光という部分に関わっているかは、我々の地域の中では無いと言っているのかなと思っています。

ですから、今回このテーマの中で市民協働という形になれば、どうやって市民1人1人が関わっていきけるような、チラシを配るのではなくて、行けるような方向を施策なりを出していければいいのかなと思っています。

私の1つの意見ですが、観光というものは我々の中では、甚だ薄い。だとすれば、これだけやっていくとなれば、羽黒あげて、市民協働という中でもっていかなければ、他所からくる人だけではないわけですので、そういった部分を含めて、今回のテーマの中でも、これからそういった施策も含めて進めていって頂きたいと思います。

<佐藤会長>

この前ステップアップを目指してということで提言しました。

これからは、その提言について、どんな具体的な行動をするか、どんな形で市民、町民と関わっていくか、その辺の動きをどうするかが問題になってくるのではないかと思います。

提言したからもういいのだということではなくて、提言をどういう風に生かして、どういう風にやっていくのだと、そんなところが問われてくるのではないかと思います。その辺は観光もいではの方に集合しまして、情報も色々入ってくると聞いておりますので、今後見える動きをしていく必要があるのではないかと。

先ほどの高田委員の話を含めて、経過がどうなったか、その辺のところはどうでしょうか、庁舎側としては、進めていくのはこちらだと思いますが、どのような形でまとめていくか。

<観光商工室 五十嵐室長>

今回「観光地羽黒の更なるステップアップを目指して」ということで、貴重な提言を頂きました。実際、この提言を具現化していくために、その手法としては市民協働というのもキーワードになってくるものだと思います。

今、庄司委員から出されました、1人1人が携わるというか、関わっていける施策というものが、本当に大変重要なことだと思います。観光と農業も関わるような施策とか、3次産業が他の産業、異業種と関わるとか、色々ご意見をいただければと思っているところでもあります。

<支所長>

今、庄司委員から言われたとおり、他の住民の方からも、観光だけの取り組みで羽黒はいいのかというご意見が多々ありまして、しかしながら、農業と観光の町ということで今までできたわけですから、農業と観光に力点を置いていこうというのは、合併をはさんでも変わらないところがございます。

それで、観光ということで地域審議会から提言を頂きまして、それを深めまして市民協働によるという市民の方々、地域の方々のお力をお借りしながら、観光のステップアップを図ろうと。

やはり、地域が元気になるには、人口が増えないことには。ただ、定住人口の増加というのは、中々望めないのかなという風に思いますので、観光をステップアップにして、交流人口を増やしていこうじゃないかと思っていることでございます。

交流人口が増えることによって、今室長が言っていたように、宿坊さん、休暇村さんへの食材の供給、農産物の供給ということでの農業のかかわりもでてくるのかなと。

そういったことで、当面観光のステップアップということで、提言を頂いたことを具現化していこうということで、けして農業のことを忘れていくということではございませんで、1つのステップとして交流人口を増やすこと、これが羽黒町が元気になることの第1ステップかなと思っております。その交流人口が増えていく中から、農業に派生していければ。農業自体の産業に派生していければと思っている次第でございますので、ご理解といたしますか、若干室長の答えに補足させて頂いたところがございます。

繰り返してございますが、けっして農業のことを忘れてはございませんし、庄司委員がおっしゃるとおり、押口のあの地域においては、出羽三山の観光といっても、ピンと来ないところがあるのかもしれませんが、是非羽黒地域全体が元気になるためということで、区長さんからもPRしていただいて、市民協働での観光、市民協働というのは観光だけに限らないと思いますので、趣旨としては市民の力を行政にお貸し頂きたいということでございますので、よろしくお願ひしたいという風に思います。

<本間 信一委員>

2期目の本間です。よろしくお願ひします。

更なるステップアップということで、去年議論したわけですし、提言されているわけで

すが、ここに書いてある状況を見ますと、先ほども話があったとおり、羽黒山を中心とした観光ということで、それは絶対なわけですが、他に波及する効果を期待しないと、更なると言うのは難しいのではないかなと思っておりました。

1つは、クラブツーリズムということで、お話を頂いたときに、目的を持った観光というものが今求められているのだという風なことで、今回アスパラの収穫体験ということで、4～5回おいでになっておりました。非常に好評だったと思っております。それで、募集する方でも、これだという目的を持ってやることによって旅行会社も活力を頂いているということでした。

そういうわけで、ニーズは違うわけですので、何を目的とするかというのは難しいと思うのですが、羽黒山というのは、それぞれ年中行事がございまして、宿坊さん、地域の方々、それぞれ協力し合って、1400年も続いてきた祭り事でありますので、これは絶対なわけですが、そういう人たちも、それと他に松ヶ岡とか、オープンセットとか、高寺八講とか、そういう人たちも、そこにどう関わっていくのか。

あるいは、そういうところをどのようにもっと宣伝していくのか、ということもここにも書いてはいるのですが、どのように具体化していくのかというのが、まず必要だと思います。

それで、私事ではありますが、細々とグリーンツーリズムということで、年3回くらいやって5～6年になるわけですが、6割位がリピーターです。「何時あるんだ」ということで電話がきたり、庁舎のグリーンツーリズム推進員の方に協力を頂いたりして何とか続いているわけですが、傾向をみますと、「来年もやってくれよ」という要望も頂いているわけです。やる方でも大変だというのはあるのですが、やはり1つの目的を設定したときに来るということで、これは1つのヒントかなと思っております。

そこで、もっともっと交流人口を増やすには、11団地にある活性化センターが非常に有効ではないかと思っております。景色もドロップ型の景色だということで、専門家の方々からも保証というか褒められているわけですが、それをどう活用していくかということで、庁舎のほうとも協議中ということですが、そこは食というものが一番大事ではないかと。景色を見ながら食べたり、飲んだり、あるいはコミュニケーションをするという、そこにまた新たな交流が生まれてくるのだと思いますし、折角のああいう施設でありますので、組織を立ち上げながら、庁舎なり、色々各方面のご指導を頂きながら、何とか立ち上げていきたいと考えているところですが、そこら辺の活かし方というのが1点と、交流人口を増やすという意味合いにおいて、先ほど紹介ありましたが、町づくり塾ですか。その辺も私も興味を持って聞いておりましたし、いつかマスコミの方に載ったような記憶もございます。その辺もう少し詳しく教えていただいて、若い人たちが地域を宣伝する、PRするということは非常に大事だと思いますし、何よりもやはり地域の人たちのコミュニケーション、また、他から来た人とのコミュニケーションと、そういうものがイベントの大事なことだと思っております。それだけの素材、資源があるわけですので、その資源を活か

しきる組織なり、そういうものをどう立ち上げていくか、行政の力が無いと中々厳しいのではないかなと。市民協働というのは、言わんとすることはわかるのですが、行政が主導しながら、それぞれ関わっていくと。そして、ある程度ステップアップしたときに、それができるのではないかなと思っていますが、色々と先ほど紹介されたことにつきましても、やはり行政が1度は主導したと思うのです。それが独り立ちしたときに、協力事業として独り立ちしているのだと思いますが、その辺も含めて今回の2点について行政の考え方をお聞きしたいと思います。

<金野 信勇委員>

金野です。

1つは鶴岡市のほうで鶴岡市における市民協働ということで、市民協働という言葉を使っていますが、ここの会は地域審議会ですね。ということは、市民という言葉よりも地域を前に出すということで、今仮ですが、「市民協働で進める羽黒の観光」、羽黒の観光というだけでは、というのは今聞いたとおりです。それで、この市民のところを地域にしたらいいのではないかなと思います。そして協働というのは非常にわかりにくい言葉です。その代わりにどういう言葉を使うかという、地産地消という言葉があるように、地域で育てて地域で就職するという、地育地職という言葉があります。そういう事を考えると、地域協働じゃなくて、共に創る、「地域共創で進める羽黒の観光」という風に、地域の人たち、羽黒の地域の人たち皆で創っていったらどうかと。題を「市民協働」ではなくて「地域共創」に変えたらいいのではないかなと思います。「共に創る、創」です。そして今色々な意見があったので、観光というものを色々なものとタイアップさせたらと。どういうものかいいと、私ははっきり言えないのですが、そういうものを考えてみて、仮の題が本当の題に、本物の題がはっきりすれば、これからどう創っていくか、上に立つ題が去年もステップアップを目指してということを出たように、これは私の意見です。私は市民共創を進めると、そうした方がいいと思います。

<佐藤会長>

ありがとうございました。

今、新しい提案がありました。

本間委員の意見ですが、隣同士のつながりの形で、行政の方どう考えていますかという意見がありましたが、その返事と、金野委員からの地域共創という新しい言葉が出てきましたが、これは今回だけではなくて次回までの課題ということでやっていきたいとおもいますけれど、その辺を踏まえまして意見をお願いしたいと思います。

<産業課 岩城課長>

先ほど庄司委員と本間委員からありました、観光と農業の町で、合併前から2つの柱でなっていて、合併後の羽黒地域につきましては、同じく観光部門ということで、とりあえずこれにあるとおり、観光に特化した部分というのはあると思いましたが、農業も含めて交流人口を増やすと。農業を如何にして上手く活用するかというご提案がありました。

実際、本間さんは5年間ほどグリーンツーリズムの中で、地元の農業を使っただけで、人と人との交流をしながら、リピーターを増やしながら継続しているという実態がございまして、羽黒としては景色の良い、平場と共に中山間の開拓地と山間部にもあるという特殊な立地をしております。そういう棚田とか、11-3団地、玉川から月山団地に上がった地域を国営団地で昭和40年から50年に開拓しまして、今あのようなすばらしい農地ができたわけですが、農業政策上、水田ができませんで、畑地化で今現状は高台から庄内平野を眺めるという、そういう形の眺望でして、非常に北海道というか、ヨーロッパと先ほどは言いましたが、そういう感じの景色がございまして。また、大体標高300mほどでございまして、私たちのことと言うと、あそこで取れる野菜は、高原野菜ということがありますが、まさしくあの部分を特化しながら、観光と結びつけるということは、今日皆様方と一緒に考えて、地元の農地の方々と野菜に特化していかなければならないと考えています。

また、その拠点となる活性化センターという施設がございまして。あれは現在使われているのは、地域の農作業をしている方々の休憩所として使われておりまして、地域活性化の為にもっと広く活用して頂きたいということで、もう1~2年したら地元で自由に、自由に、その目的を実現するために地元の方々から利用してもらおうという形で移行していこうと、市としても地元にお声掛けしているところでございまして、活用も自由にできるという方向で、ご苦労もあるのですが、やって頂きたいということで、食を発信するところ、また、地産地消ということで地元の人、又は観光客に高原野菜を販売する等、色んな形で今後活用していければと考えているところでございまして。

あと、グリーンツーリズム、農業体験ということで、交流人口を増やす手法ですが、農業に関わらず、松ヶ岡の観光資源、それに果樹園、そういうもの広くありますので、そういう観光資源も、昨年講演のありましたクラブツーリズムの小笠原部長さんが言うように、その資源を、見えない資源をもっと活用しながら交流人口に、商品として売り出して、おじいさんおばあさんの小遣い稼ぎにどうだという提案も私としても興味深く思っておりますので、農業と観光、そういったものを地元で働きかけながら、交流人口を目指せばなんと今考えているところであります。

そういうところで、今、高原野菜を含め、羽黒地区の農業が観光と結びつく方法を皆さんに提案して頂いたものを、実現していければと考えているところですので、よろしくお願ひしたいと思います。

<加藤 欣也委員>

高寺の加藤です。今年からお世話になります。

今回これに応募させて頂いたきっかけとして、町づくり塾、町のことに興味がありまして、皆さんと一緒に町のことについて考えていければなと思って応募させて頂きました。よろしくお願ひします。

今回、鶴岡町づくり塾ということで、羽黒グループの代表をしておりますが、町づくり塾を始めて4年目くらいになります。

それで、若い、若いといっても、20代、30代、40代も居ますが、中には元々羽黒町出身ではない方も居ます。

その中で最初の1～2年目はKJ法といって、町の良いところ、悪いところといったことを1つ1つピックアップしたうえで、何が必要かということをして2年掛けてしました。

その結果、1番最後に出たのが、若い人たち、子供の頃から羽黒の魅力に触れてもらうのが重要ではないか、ということが出まして、それが今回、もてなしガイドということで、普通の観光客むけのガイドブックではなくて、内向けといいますか、地元の人向けのガイドブック。それは先ほど言ったように、地元の人たちから羽黒の良さを知ってもらおうということで作ることにになりました。

一番は子供たち、小学4年生、5年生のレベルで簡単なやさしいガイドブックが作ればなということで、以前は、旧羽黒町のときですと、私たちの羽黒町という副読本がありました。内容を見ますと、今も配ってほしいなという、魅力を感じる本なのですが、それが今鶴岡市1本に統一されまして、そのガイドブックが子供たちの副読本といいますか、羽黒を好きになるきっかけになってくれればなと思ひまして、近々と言ひますか、8月、9月くらいで出したいと思ひています。

ガイドブックと言っても、全部を網羅するものではなくて、検討の結果、一連の物語を作っていないと興味を持ってもらえないかなと思ひまして、今回は出羽三山の開祖であります蜂子皇子、その蜂子皇子の足跡を辿るということで、大まかなところを要所要所回りまして、写真を載せたり、物語を作成したりしております。蜂子皇子といいますと、羽黒町だけではなくて、由良の八乙女岩の方から上がってということがありまして、今鶴岡市合併しましたので、鶴岡市全体で蜂子皇子を知ってもらえたらなということがありまして、それで魅力を感じて、鶴岡市に住む意義といいますか、魅力を感じられればなと思ひています。

何と言っても、自分たちの住んでいる所を愛せなければ、住んでいる意味が無いといひますか、私も高寺八講という伝統芸能をやっておりますが、やはりその継承が難しくなっております。何故かといひますと、魅力を感じないといひますか、お金にもならない、その伝統芸能一生懸命出ている人は居るのですが、半分くらいの方は無気力で参加しない方がいいのかなという風潮もありまして、実際お金には1銭もなりません、やっている方は一生懸命やっておりますが、何百年という伝統を無くすのはすぐですが、作るのはもう無理ですので、それで感じているのは、集落の中でも高寺の、高寺八講の歴史も知らないし、魅力も知らないというところがありまして、自分も集落の中で発信していかなければならないなと思ひしております。やっぱり誇りに思ってもらひるのが一番かなと思ひまして、今回そういう思いもあつてのガイドブックになります。

それに、この町づくり塾というのは、私たちが作ったわけではないですし、鶴岡市のほうから、先ほどの協働という部分もありますが、その部分で協力してもらっている部分もあります。総務企画課の方たちの強力なバックアップを受けておりますので、当然、私た

ちだけでは成り立たない部分もありますので、これからも市の方から協力していただければなと思います。どうしても、私も一市民として、他力本願で動けない部分がありますので、きっかけ作りで市の方から頑張ってもらえば。それで私たちも何か動けるきっかけを掴んだり、横のつながりができたりするのかなと思っております。

<佐藤会長>

貴重な意見ありがとうございました。

時間も時間ですがもう1点、これから私たちも高齢化していくわけですが、老人クラブの岡部会長何か意見ございませんか。

<岡部 彌一郎委員>

今日参加した内容が把握できなくて来まして、皆さんと同じ意見を持とうと資料を見て下を向いていたわけですが、色々と資料を見ながら思い出していたところですが、こんなことを言って悪いのですが、羽黒の観光、宿坊が今すごく落ち込んでいると思います。そういう中で、先ほどから皆さんが言われましたように、農業と観光といいましても、農業の方も高齢化しているということで、この辺で何を頑張っていけばいいかということ色々と考えていたわけですが、先ほど加藤委員が言われたように、そういう新しい発想を持っていくということになりますと、かなり資金的な援助も必要になるという。

かつて高寺八講で衣装がぼろぼろになって、箱も無いしということで、私も農協に箱を置いていたということもありまして、農協でも援助しようということになりまして、衣装に関する資金援助をしたこともあります。

そういうバックアップ、地元で盛り上げていって、そういうバックアップができるか、できないかで、関心を持つか、持たないかということに繋がっていくと思います。

今年羽黒山の御田植祭に久しぶりに出たのですが、まず地元の人居ないこと。お祭りに観光、観光といいまして呼んでも、これでは駄目だなと思いますし。

それで私たち、泉、広瀬の羽黒代参講という講があるわけですが、その講員を辞めて大分不足になってきております。そういうことから地元の、我々の住んでいるところから如何に活性化するかということは、如何に奮起するかということで、高寺八講がいいという事であれば、それに一口でも参加していこうと。それで今の羽黒山の神社のお祭りに1日でもいいから参加しようという、その心構えが無かったら、やっぱり活性化に繋がらないと思います。

それで今、ブルーベリーやさくらんぼなんかも、ブルーベリー農園、さくらんぼ農園ということで、個人的に頑張っている人が居るわけですが、役場の方でも色々と援助はしていると思いますが、その手助けをどのような形で盛り上げていくか、それが1つのこれからの課題ではないかなと。

今、そこまで考え中でありまして、結論が出ないわけですが、まず何とか助けて、盛り上げていきたいなというところでもあります。

<佐藤会長>

これは我々審議委員会含めて、ここでああだこうだと議論するよりも他力本願ではなく、汗をかくことが大事だということだとおっしゃったと思います。そういったものを含めまして、資金援助とかあるにしても、これからそういった議論を進めていくにしても、支援が必要だという意見もありました。

その辺の庁舎の受け止め方はどんなものでしょうか。力強いお話を聞きたいのですが。
<支所長>

力強いお話を聞きたいという会長のお話でしたが、冒頭にも申し上げましたが、市民と地域と行政が協力して、まあ、市民共創という意見は頂きましたが、その辺は今後協議して、それを目指して地域を元気にしていきたいと思いますし、地域、市民の意見を聞くということは、聞いた意見をそのままにしないということだと思いますので、会議を開くか開かないかは別にして、情報を伝える手段というのは様々でございますから、情報をこの委員の中、更には他の組織と共有をしながら、1つの方向に向かっていけるように努力をしていきたい、努力だけでは駄目といわれるかもしれませんが、努力をしてまいりたいと思いますので、是非今後とも貴重なご意見を聞かせて頂きたいと思います。

力強いかどうかはわかりませんが、庁舎としてはそのような方向で進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたしたいと思っております。

<佐藤会長>

我々も、ことある毎といったら語弊があるかもしれませんが、我々も汗をかくことはやぶさかではありませんので、ひとつ問題提起、集約等やっていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

<齋藤 良幸委員>

広瀬地区公民館の齋藤です。

地区の公民館にお世話になってこの立場にあるわけですが、この提言の、観光地の更なるの部分と、どうマッチしていけばいいのかなど。公民館事業としてどう関わっていけばいいのかなど、ずっと考えていたのですが、先ほどから皆さんの意見出ましたし、地域が活性化しないと中々発信できないと思います。しかも、観光のPRも地元と家族等、遠い親戚に発信できれば、地道ではあるが、相当の人が来てくれるのではないかと思います。というのは、やはり地元を知らないと自分の方からPRできないというのがありますので、これからはできるだけ、公民館としては地域の知識を、羽黒の知識を、歴史を、勉強できるような場に、事業にしたいなと考えていました。

地道ではありますが徐々にというような、意見が出ていましたので、今後事業に取り組んでいきたいなと思っております。以上です。

<高田 志郎委員>

毎年、秋の峰入りで、出羽三山の山伏ですか、これは皆さん知っているわけですが、ここに黄金堂の、正善院の住職さん居るわけですが、お寺さんの秋の峰入りの宣伝、PR、

そういうのはどういう風になっていますか。観光の方でも何か取り組んでいますか。

私の言いたいことは、秋の峰に入るには、25日と26日の昼頃出るわけですから、遠い人だったら必ず前日来て、31日の夕方に終わるわけですから、遠い人だったら必ず泊まるはずなのです。それを鶴岡のホテルに泊めないで、是非羽黒地区に泊めて欲しいと。そういう願いです。

<佐藤会長>

まだまだ意見があって議論をしたいと思っているわけですが、学者に言わせるとフランスにも負けるとも劣らないロケーションだという意見もあります。そういうことで、今日は前向きな意見を大変出して頂きまして、審議会らしい議論になったかなと思います。時間の関係で十分な議論ができなかったことにつきましては、進め方が拙かったかなと思っておりますけれども、こういった形で今日出た意見を纏めていただいて、今日の審議会の方たちに配布していただいて、次回に続けたいと思いますので、今まだ中途半端な意見もありますが、それを纏めていただいて、「市民協働で進める羽黒の観光」ということで進めてきましたが、「地域共創で勧める羽黒の観光」はどうかという意見もありました。こういったものを次回お互いの考えを含めながら進めていきたいと思いますので、今日は時間になってしまいましたが、この辺でよろしいでしょうか。

(2) その他

<支所長>

実は羽黒庁舎の建設について、今後、地域審議会の中で協議を頂きたいのが1点でございます。

何故新庁舎を建設することになったかは、詳細は省略しますが、震度6弱の地震がくると倒壊します、という診断がございまして、耐震補強という選択肢もありますが、今現在空いている部屋等も結構ございまして、それを補強しても無駄になるということがございまして、改築と言いますか、新しい庁舎にしようという話がでてございます。

また中間省略しまして、新しい庁舎にするにはどうするかというのは事務局の方で、例えば他の公共団体を加えながら、等を検討しながら進めているのが現状でございますが、今後まだまだ期間があるといえますか、今年度基本構想をいたしまして、25年度に基本計画かなと、そこまでしか定まっていません。それから、合併特例債が5年延長になったということもございまして、それらを見合いながら、少し期間の長い検討になろうかと思えますが、是非今年度は基本構想を策定したいと思いますので、今後の会議の中で率直な様々な意見を頂きたいと思いますので、その他ということで貴重な時間をいただいて申し訳ございませんがよろしくお願いたしたいと思えます。

7 その他

特になし

4 閉 会 (17時30分)